

平成25年度 健康保険組合全国大会開催!

改革の実現と健康保険組合の存続なくして皆保険の維持無し!



平成25年11月22日、東京国際フォーラムにて平成25年度健康保険組合全国大会が開催され、全国の1,400余りの健康保険組合から約4,000人が集結しました。

当日大会で決議された内容の要旨と採択された4項目に関して皆さまにご報告いたします。

現在健康保険組合は、かつてない厳しい運営を強いられており、平成25年度予算において4,500億円を超える赤字を計上し、赤字組合の割合は8割を超えています。高齢者医療制度への支援金・納付金は3兆円を超え、保険料収入に対する割合は過去最高の46.25%にも及んでいます。もはや負担は限界を超え、健康保険組合の存続さえ危うい状況であるともいえます。

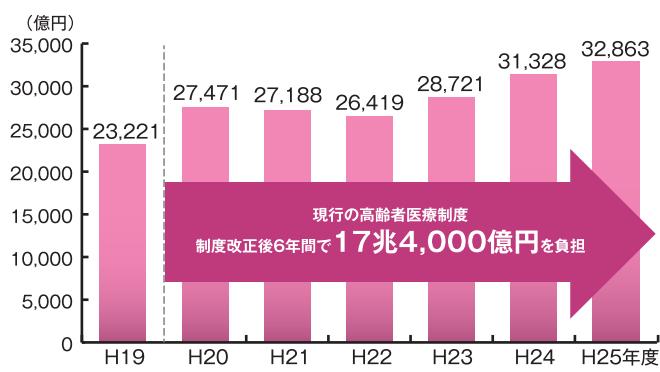
この危機的な財政状態を招いている最大の要因は、高齢者の医療費負担にあり、それは広く国民全体で支えるべきであり、現役世代の保険料に過度に依存するべきではないと考えます。特に公費の投入がない前期高齢者医療へは適切に公費を投入し、過重な現役世代の負担の軽減を図るべきであり、加えて、健康保険組合の安定的な運営に向けて、現行の高齢者医療制度の負担方法をはじめとする不合理な仕組みを早急に是正することを強く望みます。

また、年々医療費が増大するなか、国全体で積極的に医療費の適正化に取り組むことが必要不可欠です。

加入者数全国約3,000万人の健康を守り、国民皆保険制度の中核を担ってきた健康保険組合は、これからも皆保険制度の維持・発展に向け使命感を持って取り組む所存であり、国民生活の安心確保に向け、皆保険制度を持続できる社会保障制度改革を実現し、次世代に引き継いでいくために、大会では次の事項の実現を期し、組織の総意をもって決議しました。

- 高齢者医療の負担構造改革と持続可能な制度の構築
- 前期高齢者医療への公費投入の早期実現
- 持続性ある制度に不可欠な医療費適正化の推進
- 保険者機能を發揮できる健康保険組合方式の維持・発展

■高齢者医療制度等への拠出金の推移



■保険料収入に対する拠出金の割合

